

ボクとお姉ちゃんのひみちゅ♡

憧れのお姉ちゃんとのエッチはサイヨ一でした



「はあはあ…ねえ
ボク、ほんとに
お姉ちゃんに
セックスしても
いいのかな…」

「うふふ…
言い出したのは
リョウくんだよ？
ここまできて
リョウくんは
やめれるのー？」

「う…それは
そうだけど…」

ぶちゅっ…ぬるぬる…

「んっ…どうするの？
ここでしちゃう？
それともやめちゃうの？」

「はあぁぁー…っ
おちんちんの先っぽを
アソコで擦られると
ボク、もう我慢
できなくなっちゃうよーっ」

ドキ

ドキ

たのしみ

たのしみ



ずぶっ
ずぶずぶずぶーっ

「はあーっ
お姉ちゃんのナカ
すごく気持ちいいーっ」

(あんっ…
弟のおちんちんが
根元までいっきに
私の膣内(なか)に…っ)

ドキ

ドキ

ずん

ずん

ちゅ

ちゅ

ずん、ずんっ

「はあはあ…すごいよっ
ヒダヒダが絡みついでっ…」

ずっぶ ずっぶ

「う、卯月お姉ちゃん…っ
はあはあ…このままっ
出しているっ」

「ええっ?
お姉ちゃんの
膣内(なか)に出すの?」

「うっ…うんっ
だ、だって、とっても
気持ちいいーからあーっ」

(ううっ、も、もう
ダメーっ…っ)

「それに
ヌルヌルして熱くって
ボクのおちんちんが
溶けちゃいそうーっ」

ちゅ

ちゅ

びゅるっ
びゅるるる〜…っ

(はあはあ…
やっちゃった…ボク
お姉ちゃんに中出し
しちゃった…)

「うふふ…
しょうがない
リョウくん♥
でも、初めてのセックス
だからしかたないかもね♥」



「はあはあ…うんっ
今度から気をつける!」
「危ない日もあるから
今度からちゃんと
お姉ちゃんの返事を待って
中出ししてね♥」
とぶっ とぶっ…



「おや」

「おや」

「リコさん
可愛い...」

「...（赤面）」

「うふ...なに？
お姉ちゃんに
見られただけで
物ってきちゃったの？」

わく

「う...？ア、いよ...
おちんちんが
勝手に大きくなって...」

わく わく...

（うふ...ヒタヒタ反応
して可愛い...）

「（モジモジ...）
あの...そんなに
顔近づけてられると
すごく恥ずかしいよ...」

「わあ...
リコさんの
おちんちん
こんなに
あなたの
初めで...」

「おや」



びく

びく

「はるはる...
お、お姉ちゃん...
ボク、もう...?」

びくびく

うふふ...
リョウスケの
おちんちんの
興奮しすぎて
すく打ってる...!

じゅる じゅる...

「はるはる...」

う...まじや...
ロでして...
こんな気持ち
いいんで...?

はむ...? くるくる...

「ん...じゅる...
こすると
気持ちいい
でしょ?」

「うあ...
お姉ちゃん
なに...?」

かたひ



「あー…」

「あー…
お風呂の
お湯が
あついな」

「あー…
お風呂の
お湯が
あついな」

「あー…」

「ん…
熱い精子が
お口にいつ
入ってくる…」

「はあ…ああ…」

「あー
びゅる
びゅる」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」



「うふふ、こんなに
気持ちよく
なってもらえて
お姉ちゃん嬉しい！」

ブルブル…

「うふふ
精液もいっぱいだし
よっぽど気持ち
よかつたんだねー！」

「はあはあ…
か、体がまた…
ガクガクしてるよ…？」

んんん



「ほおほほ…」

お姉ちゃん…で
セクレスしよ…」

ぐんぐん

「あん…
お風呂じゃなくて
…でしよやろ？」

「だつて…
お姉ちゃんが
履脱いでる
のみてたら
まじ興奮
してきちゃって…」

「でもまだ身体
洗ってないから
汚いよ…」

ピキ

ピキ

ピキ

「あ、待って…
それじゃ…こうや
パズル下ろしてから
セクレスしよな…」

「そんなことないよ
お姉ちゃんの身体
いつも綺麗だもん」

ぷぷ

ぷぷ

ぷぷ

ん



ずぶっ ずぶっ ずぶっ

「あら...
こんなじゃない
お...」

「はぁん...
それは準備が
十分じゃなくて
あんまり濡れてないから...」

ぞく

「はぁはぁ...なんだか
この前より
キツいかも...」

ずぶっ ずぶっ

「あん... リョウさんの
おちんちんが
ずぶずぶ私の
腰内(なか)に入
りてくるぅ...!」

ぬぶっ ぬぶぶぶっ

ぞく

「はぁ...
お嬢ちゃん腰内
(なか)に入...!」

ずぶっ



(あぁっ…リョウさんの
元気な精子が私の
子宮に当たってる…！)

ぞく

ぞく

ぞく

ぞく

ぞく

「あんな…まだ腹内
(なか)に出して
ないで着けて
ないのはい」

びゅっ びゅるるっ

ぞく

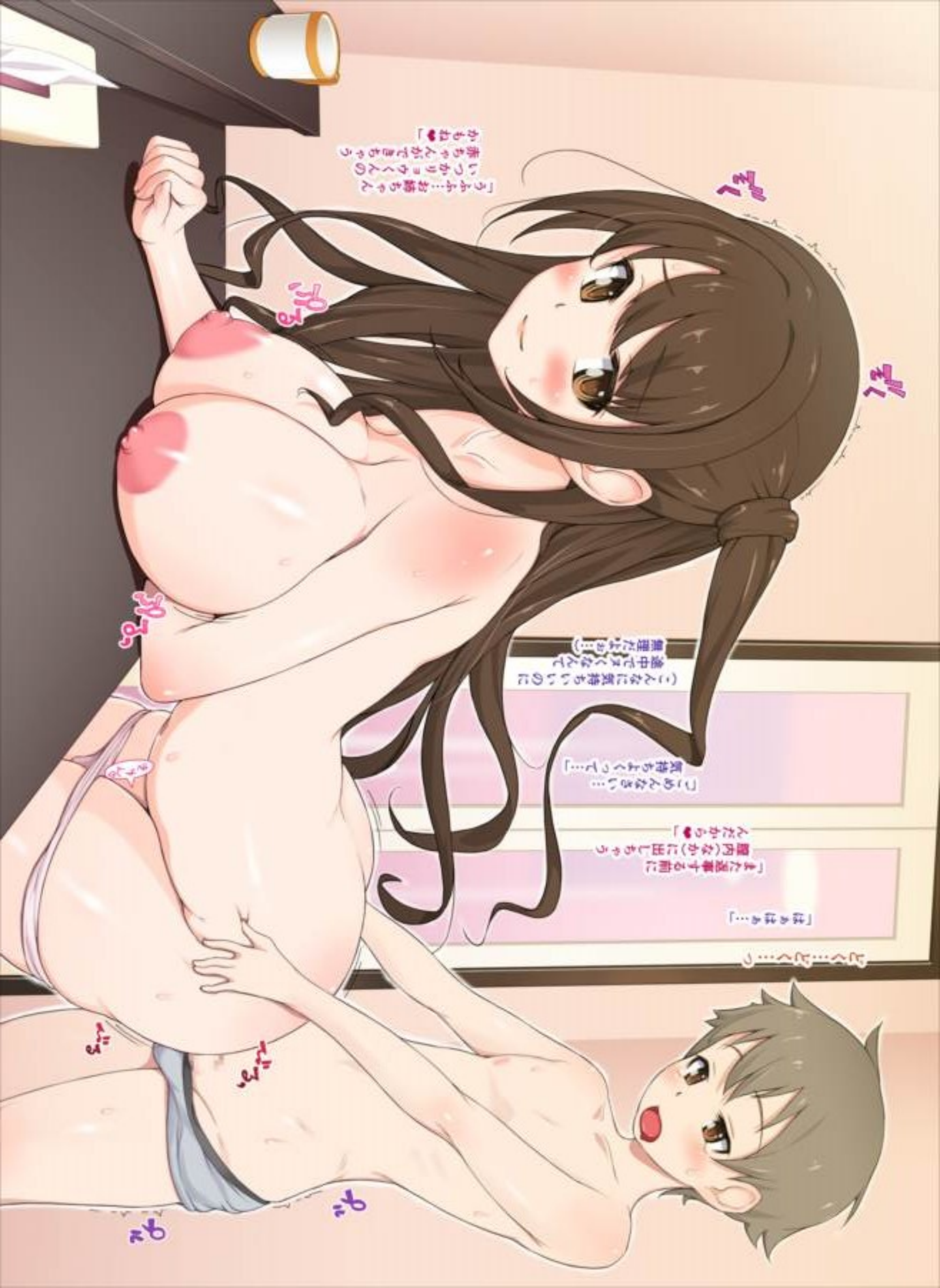
ぞく

びゅるるっ…びゅるるっ…

「んん…？お姉ちゃん…」

ぞく

ぞく



ぞく

ぞく

ぞく

ぞく

ぞく

ぞく

ぞく

ぞく

ぞく

「そんなに気持ちいいのに
途中でまくなんて
無理だよお…」

「めんなるじ…
気持ちよすぎて…」

「まだ返事する前に
室内(なか)に出しちゃ
うだから…」

「はあはあ…」

ぞくぞく…ぞくぞく…

「うふふ…お姉ちゃん
いつかリョウさんの
かもね♥」

「うふふ…お姉ちゃん
いつかリョウさんの
かもね♥」



ずぶっ ずぶっ

「はあはあ...
パパとママの寝室で
こんな風にセックス
していいのかな...?」

「あんっ
お姉ちゃん
大きく広げて
腫張ってるのに
そんなこと言うんだ...!」

パン パニー

「うっ、だつて...
股間広げて...
裸で誘惑されたら
我慢しないで...!」

ぬふっ ぬふっ

「あん...
リコちゃんたら
腰を回して
おちんちんで
私の色んなところを
探ってくる...!」

「はあはあ...
お、お姉ちゃん
もう腰内(なか)に...中に
出していい...?」

「あはっ
いいよ...
お姉ちゃん
の腰内(なか)に
リコちゃんの
精子
出して...!」

ザシッ

ザシッ

ザシッ

ザシッ

ザシッ

ザシッ

ザシッ

ザシッ



「んん…すっぴいよ…
リョウスケくんの精子
おやんとお姉ちゃんの
奥に届いてるよーっ♡」

びゅるっ
びゅるっ
びゅるるるっ

「うあ…
お姉ちゃん…
奥に届いてる？」

「はあん…
そんなに押し付けると
リョウスケくんのお腹で
お姉ちゃんのが
クリトリスが
濡れちゃう…っ♡」

ずぶぶぶっ
びゅっ
びゅるるるっ

「ま、まだっ…
もっとお姉ちゃんの
子宮の奥に…
ボク精子いっ…はい
出すんだっ…っ♡」

とぶっ とぶっ
びゅる…びゅるっ

びゅるるるっ

びゅる

びゅるるるっ

びゅる

びゅる

びゅる

びゅる

びゅる

ひく ひく...

「はあ...はあ...
すごく気持ち...
よかつたあ...」

「あは...
りょくさんの精子
お姉さんの奥に
入っただね！」

「赤ちゃん...
であらうかな？」

「うふふ...
りょくさんは
そんなこと考えずに
中出し
しちゃったの...」

ザシワ

ザシワ

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは



「どうだった？
パパとママの寝室でした
セックスは気持ち良かった？」

びゅるっ びゅっ

「うふふ…
お姉ちゃんの膣内(なか)
からリョウくん精子
いっぱい溢れて
きちゃったね♡」

「これからもお姉ちゃんと
いっぱいセックスして
遊ぼうね♡」

ぷるっ

ぷるっ

とろっ





くら くら...

「そんなに吸っても
マアみたいに
ミルタはでない
んだからおね」

「でも、お姉ちゃんのおっぱい
マアより大きいから
赤ちゃんができれば
ミルタいっぱい飲めそうだね」

「あんっ、カイったら
赤ちゃんみたいに
お姉ちゃんのおっぱい
に夢中で...」

「んぐんぐん
おっぱいマアとの
同じ匂いがする...」

おゆちゆう

ちゆう
ちゆう
おっぱい

ア...



「あん? そんなと見る
見ちゃったんだ?
もか: パバとでも
不用心なんだから...」

ぞくぞく...

「でも、この間バが
アッにしてたよ?
アッとしても喜んでたし」

「あ: カイだめたよ:
お姉ちゃんのアッコに
手を入れるのは禁止
なんだから...」

くちゅくちゅ...

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

「ねえ、凛お姉ちゃん
今日はお姉ちゃんのアソコ
じっくり観察したいから
両脚広げてベッドに
寝てくれる？」

「んっ…もお
仕方ないんだから♡
はい、どうぞ♡」

「ママと違って
あんまり毛がないね
それにアソコもピツタリ
閉じてて…ボク達の
同級生と同じみたい」

「うわあ…これが
凛お姉ちゃんのアソコ
オマンコなんだね」

わく

わく

わく

「中はどうなってる
のかな…ねえ、お姉ちゃん
アソコ広げてもいい？」

「ん…
お姉ちゃんのアソコ
そんなにみたいの？」

「うん…お願い…
凛お姉ちゃん…」

「うふふ…そうね
二人がしたいなら
そうしてもいいよ♡」

わく



くばあ...

「これがお姉ちゃんのオマンコの奥なんだ...」

ドキ

ドキ

ドキ

(ああっ...私、二人の弟にアソコ広げられて大事なオマンコの奥覗かれてる...)

ヒクヒク...

「す...いや...おちんちんが入るところ...閉じたり開いたりして...奥からいやらしい液もどんどん出てきてるよ...」

わく

わく

わく

わく

「はあはあ...ねえ 今度は指...入れてもいいでしょう?」

くばあ

わく

わく

「んんっ...そうね お姉ちゃんもこのままじゃ納まりつかないし...指、入れてもいいよ!」

ずぶずぶ...っ

(んっ...弟の指が
膣の奥に
入ってきてる...っ♡)

ぞく

ぞく

くちゆくちゆ...っ

「うわぁ...ヌルヌルして
とっても温かい...」

(あん...膣が疼いて
脚が閉じてしまいそう...っ)

「奥からいっぱい
いやらしい液が溢れてきて
中が洪水になってきてるよ...」

ぐちゆくちゆ...っ
じゅぶ、じゅぶ...っ

わく

「うわ...すごいね
色んな方向に弄るとに
もっといっぱい
出てくるみたい」

ガクガク...っ

「んんっ...あっ...はあっ...
いいよ...もっとお姉ちゃんの中
もっとかき回して...っ」

ぐちゆくちゆ...っ

「はっ...あんっ...
イク...お姉ちゃん
イッちゃう...っ」

くばよ

んん

ずぶずぶ

んん

わく





びゅっ
びゅっ
びゅっ...

「はあはあ...っ
お姉ちゃん
イッちゃった...♡」

ぞく

「うわあ...
お姉ちゃんのお汁
おしっこみたいに
いっぱい飛び出して
きちゃった」

びく...びく...っ

「うふふ...
お姉ちゃん気持ち
良すぎて
シーツ汚しちゃった♡」

びゅ

びゅ

わく

わく

んん

んん

びゅん

ずぶずぶずぶずぶ...

「はあああ...こ、これが
お姉ちゃんのおマンコの中なんだ...っ」

「あんっ...んっ...お姉ちゃん
二人同時にセックスするの
初めてだから、して欲しい事が
あったら、ちゃんと言うのよ♥」

ずぶっ ずぶっ

(腰を動かしながら
おちんちんを
しごくのって
意外とたいへんね...)

「あーん...潔お姉ちゃん
腰ばかり振って
カイと遊ばないで
ボクのおちんちんとも
遊んでよお...」

しんじり...

「あはっ、ごめんね♥
リクのおちんちん
ちゃんと扱ってあげるね♥」



「はあはあ...お姉ちゃん
ボク、そろそろ
イッちゃうかも...っ」

ずぶっ ずぶっ

「あんっ...お姉ちゃんも
カイのおちんちんが
出たり入ったりして
とっても気持ちいいよ...っ♥」

「はあはあ...っ、お姉ちゃん
もうだめ...オマンコに...
膣内(なか)に出していい?」

ずぶっ ずぶっ

「んっ...いいよ♥
あんっ、お姉ちゃんの
膣内(なか)に、カイの
精子いっばい出して...っ」

びくびく...っ

「うあ...っ、ううっ...
ほ、ボクの方も
おちんちんが限界かも...っ」

「あんっ...リクもイキたいの?
いいよ♥ はあん...っ
お姉ちゃんの身体に
精子いっばいかけていいからねっ♥」



どびゅっ びゅっ

「うあ…ああっ…はあはあ…腔内(なか)で出すのってこんなに気持ちいいんだ…」

びゆるっ びゆるるるっ

「あん…っ♡ カイの精子…
びゅっ、びゅっっていっぱい
お姉ちゃんの腔内(なか)に
入ってきてる…♡」

「リクの方もお姉ちゃんのおっぱいにいっぱい精子出しちゃったね♡」

びくっ びくっ

「はあはあ…うん
ボクもとっても
気持ちよかったから」

「うふふ…次はリクも
お姉ちゃんの腔内(なか)に
入れてあげるからね♡」



「んっ…いいよ、リク
お姉ちゃん
膣内(なか)においで♡」

「はあはあ…でも…いいのかな…っ
カイのおちんちんもお姉ちゃんの
膣内(なか)に入ってるし…」

ずっぶ ずっぶ…

「あっ…大丈夫♡
カイのおちんちんも…
リクのおちんちんもっ
おねちゃんの膣内(なか)で
優しく受け止めてあげるから♡」

「う、うんっ…それなら
ボクもお姉ちゃんの
ナカに入れるねっ」



ずぶつ

「うあっ…
カイのおちんちんも
入ってるからお姉ちゃんの
ナカすこつくキツイよ…っ」

「ああんっ…
もうちよつと
ゆっくりナカに
来て…っ…んっ、そう
ゆっくりい…っ」

ずぶずぶずぶずぶずぶ

「はあはあ…っ
んっ…やつと全部っ
お姉ちゃんのナカに
入ったよ…っ」

（んんっ…2本同時は
ちよつと無理だったかな…
あんっ…ふたりのおちんちんが
ゴリゴリ私の膣内（なか）を
行き来してる…っ）

ずぶん

ずぶん

ずぶん

ずぶ

ずぶ

ずぶ



ずつぶ ずつぶ

「はあはあ……
お姉ちゃん、ボク
もうイキそうっ」

「はあはあ……
ほ、ボクの方も
イキそうだよっ」

「はあんっ……
いいよっ……ふたり同時に
お姉ちゃんの膣内(なか)に
出じていいよお♡」

「(二人)うあっ……も、もうダメ
出ちゃううううっ」

どぶっ びゅるるるっ
びゅっ びゅるるるっ

「うあっ……お姉ちゃんの膣内(なか)に
ふたりの精子がはいってくる……っ」

びゅるっ びゅるるるっ



びゅるるる

びゅるるる

びゅるるる

びゅるるる

びゅるるる

びゅっ
びゅるっ

「うふふ…一人分の精子だから
お姉ちゃんの膈内(なか)から
いっぱい出てきちゃった…♡」

「お姉ちゃん3Pなんて
初めてだったけど…
うふふ…クセになっちゃうかも♡」





「だつて、ちよとと前まで全然思つてなかつたんだもん」

ちよはちよは！！

「以前は全然お姉ちゃんのおっぱいに興味をかけたのにね」

キーン

キーン

キーン

キーン

「んっ…うんおっぱい出ないのが羨ましいけど、美味しんだよ」

ちよちよちよ…

「うふふ…カズくんお姉ちゃんのおっぱい美味しー」

んん

んん

んん



「あん...
そんな...
お姉さんに弄られたら
でっか...
うかも...」

「あ...
お姉さん...
おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...」

「あ...
おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...」

「ん...
だ...
お姉さん...
おっぱい...
おっぱい...」

「ん...」

「ん...
おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...」

「ん...」

「ん...
おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...」

「ん...」

「ん...
おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...
おっぱい...」

「ん...」



どき
どき

「カズくん、お姉ちゃんの手…
気持ちいい？」

しゅこしゅこ

「う、うんっ…
す、すこく…気持ちいいよっ」

(うあっ…絶対、こんなお願い
聞いてもらえないって思ったけど…
ホントにしてもらえるなんて…っ)

びくびくっ

「んっ…うあっ…」

(うふふ…おちんちんシゴくたび
カズくんの身体、ビクビク反応して
カワイイ…っ)

しゅこ

しゅこ

どき

どき

どき



どどど

「うふふ…こうやって…
カリの部分も、擦ってあげるね♥」

クリクリ…

「うあっ…そ、それは…っ」

「あはっ♥ 先っぽから
ヌルヌルしたのが
いっぱい出てきちゃったね♥」

くちゅくちゅっ

（はああっ…それっ、おちんちん
全体にまぶされると
余計に気持ちいいっ）



やみやみ

どど

「あっ…あうっ…
ほ、ボクも、もう…っ」

びくびく…っ

「うふふ…我慢しないで♥
お姉ちゃんの手で、出しているからね♥」

まゆ

ニャッ



どきどき

どびゅっ どびゅっ
びゅるるるー……っ

「うあっ……はあぁぁっ……」

(あん♥ すこい♥
精子が勢いよく
一直線に飛び出てくる♥)



どきどき

どきどき

どきどき

どきどき

どきどき



びく
びく

びくびく...っ

「はあはあ...お姉ちゃん、ボク
精子出しすぎて、クラクラして
きちゃった...」

「うふふ...興奮し過ぎて
湯あたりしちゃった？
冷たいシャワー浴びて
火照った身体冷やそうね♥」

びく

びく
びく

びく

びく

びく

びく



「はあはあ... 大丈夫、
 こんなに気持ちいいと...
 すぐに出ちゃうよお」

（はあ... お嬢ちゃん、
 ぐちゃぐちゃしてるのに奥に行けば
 行くほどキツく締まってる...）

ぐちゃぐちゃ ぐちゃぐちゃ

「うん... 足は暖かいからいいから
 物置部屋でサマエキして
 ねかるよ大丈夫... 気持ちいいわ」

「あ... 大丈夫...
 かみ少し動いてる...
 そうしな...
 お嬢ちゃん、声が出るわ...」

うんうん うんうん

「はあ... 足が、お嬢ちゃん、
 暖かいな...」



「ああ…ボク
お姉ちゃん（なか）の
乳で精子だじでるんだあ…」

「はあ…はあ…」

「はあ…
かすくの精子が
私の乳（なか）に
どんどん入るでる…！」

どんどん…どんどん…

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ



「うふふ…こんなに出るわあやったら
玉のチのお片づけしてる間ずいど
アノコ押さえてないと
いけないかも…」

「あん…まだ射絡してる…
お姉ちゃんのお腹にたっぷり…」

びゅるる…びゅるる…

んん

んん

んん

「は…は…は…は…は…は…
おのちいへん…
よのちいへん…」

「おは…おんべいの射絡…
まだ射絡してて射絡してる…」

びゅるる…びゅるる…

んん

んん

んん

んん

んん

パン パンの

「はあっ……
雪歩お姉ちゃんっ」

「うふふ…そんなに
ガッツかないで♥
今日はパパもママも
帰りが遅いんだから♥」

ずつぶ ずつぶ

「はあはあ…
それじゃボク、お姉ちゃんと
セックスし放題なんだねっ」

「あんっ♥ そうだよお…
カズくんの好きなだけ
お姉ちゃんを突いて
いいんだからねっ♥」



「はあはあ…ね、ねえ…
こ、今度もお姉ちゃんの
膣内(なか)に、射精して
いい？」

ずつぶ ずつぶ…

「あっ♥ そんなに
お姉ちゃんの膣内
(なか)で出したいの？」

ずつぶ ずつぶ…

「はあはあ…うん、出したいっ
お姉ちゃんの膣内(なか)を
ボクの精子でいっぱい
したいよ…っ」

「あんっ…しょうがない子
じゃあ、お姉ちゃんのお
腹にカズくんの精子
いっぱい出していいよお」

「ゆ、雪歩お姉ちゃん…っ」



ぱん

ぱん

ちゅ

ぱん

ぱん

どくんっ
どくつどくつ...

(うわ...この間も思ったけど
カズくんの精子、ちよっと
量が多いかも...)

「ううっ...はあはあ...
お姉ちゃんの膣内(なか)に
ボクの精子全部あげるね」

びゅるっ
びゅっ
びゅるるるっ
びゅ...っ

(嘘...まだカズくんの
おちんちんから精子がいっぱい...)

「あんっ♥ カズくん
そんなにいっぱい
出しちゃたら
お姉ちゃんのお腹
はち切れちゃうかも...♥」



「はぁっ…カズくんってば
ほんとにいっぱい
お姉ちゃんの膣内(なか)に
出しちゃたね♥」

とろ…っ

「あんっ♥ 油断すると
アソコからカズくんの
精子が溢れてきそう♥」

「ええっ? ちょっと
広げてみたいの?
いいけど…カズくんの
精子いっぱい出て
きちゃうかも♥」



どろっ……ごぶっ……

「あん♥ ほらぁー…
言ったとおり
カズくんの精子が
いっぱい溢れて
きちゃった♥」

ぶっ ぶびゅっ…

「やだ…
アソコの入り口から
恥ずかしい音がしてる…」

「これからもこんなにたくさん
中出しするの?」

「うふふ…
赤ちゃんできちゃっても
お姉ちゃん知らないからね♥」



